



優秀賞
OpenStreet 株式会社

シェアサイクル
プラットフォーム 「HELLO CYCLING」

シェアサイクルの展開をアシストする「IoT自転車」

DATA

活用領域・解決する課題

- ・導入の容易なシェアサイクルシステム
- ・各地域固有の短距離交通インフラ構築

テクノロジー・
デバイスキーワード

スマートロック、スマホアプリ連携、位置情報

個人で所有せず、1つのモノを複数の人が利用するシェアサービスが広がっている。OpenStreetが展開する「HELLO CYCLING」は、IoTを活用したシェアサイクルのプラットフォームである。サービス提供者と自転車利用者をつなぐ仕組みを全国の自治体・団体や企業へ提供している。

自転車に装着したIoTシステムにより、自転車の現在位置の把握、ロックのオンオフ、料金精算などを可能にした。

特徴の1つは、サービスの始めやすさ。ステーションの位置を決め、アシスト機能付きの自転車を用意し、スマートキーとディスプレイデバイスを装着すれば、「HELLO CYCLING」への登録によって、予約や精算、売上集計のサービスを利用できる。

借り主には高い利便性を提供する。スマートフォンに専用アプリを導入し、簡単な登録を行うだけで、「HELLO CYCLING」ステーションから自転車を借りることができる。ステーションの位置はスマートフォンから探せ、借りた場所以外でも返却可能だ。

駐輪場の精算タワーを小型化 自転車に個別に搭載

OpenStreetの横井晃社長は、事業構想のきっかけについて「レンタルサイクルはステーション側に精算や自転車のロックなどを行う大型の装置が必要な点が課題でした。通信設備の小型・軽量・省電力化が進んだ今、これらの機能を自転車に搭載すればスマートに運用できるのではないかと



OpenStreet 代表取締役社長 横井 晃氏
考えました」と語る。

自転車とステーションを自ら用意して垂直統合型のサービスを行うより、地域事情やサービス目的に合わせて各地で独自のサービス展開を推進したほうがユーザーベネフィットが早く確立できるとの読みからだ。

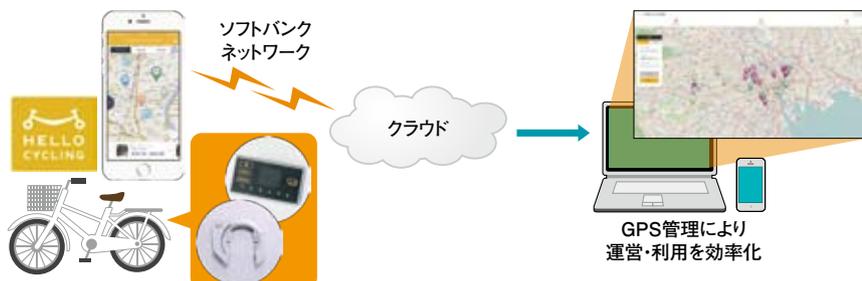
当事業はソフトバンクの社内ベンチャー事業に応募して認められ、ソフトバンクとZコーポレーション(ヤフーの100%子会社)を株主に2016年11月に新会社を設立、事業をスタートさせた。

開発の過程では、意外にも自転車に装着するハードウェアの開発に苦勞したという。「自転車に設置するため振動を受けます。これに耐えうる装置を開発してくれる企業がなく、自ら開発しました」と振り返る。

プラットフォーム型にしたことで、どこでよく停止するかなど、ユーザー行動を可視化しやすいメリットがある。停まる利用者が多い観光スポットに新しいステーション設置を提案するなど、データの活用でより使いやすいものにできる。

今後も各地でシェアサイクル事業者を増やし、安定的な運営に注力する意向だ。

図 シェアサイクルプラットフォーム



運用に必要なシステムを一括提供してシェアサイクルを地域に進めやすく

ソフト

- ・利用アプリ
- ・決済システム
- ・分析ツール

ハード

- ・スマートロック
- ・自転車
- ・ステーション設備物
- ※サードパーティより提供

運用

- ・ステーション開拓・管理
- ・コールセンター
- ・車両メンテナンス・保険サービス

ユーザー部門

ソリューション部門